

SGH 企画・キャリア教育事業「未来創造 I」職業別ガイダンス

日時:平成 27 年 10 月 27 日(火)6・7 限(14:15~16:05) 対象:1 年生

本校生徒が関心を持っている様々な職種の中から、第一線で活躍されている 8 名の方を講師に迎え、自分の進路希望に合わせて 2 講座を受講しました。

1 年生 <<SGH : 未来創造 I 職業別ガイダンス>>実施報告①

講座

A

【講師】

弁護士：辻巻総合法律事務所

安江 正基 先生

1 講座の様子



2 内容

前半は一般的な「弁護士の仕事」、「弁護士の役割」について事例を交えながらお話しいただいた。

後半の「弁護士になるには」では、ご自身の体験（理系で生物や化学について学んでいたが、文転し、「人を縛るのではなく、共存するための法律」を学ぼうと決意）から、「やりたいことは自分自身の世界が広がるにつれて変わるもの。しかし今まで身につけたことが無駄になることは無い。現実を見る目は高校時代の部活動で培われ、理系の学問では物事を論理的に考えることが鍛えられた。学校の勉強は人間としての基礎的な何かを培っているはず。自分は何をやりたいのか考える大切な時期に力をつけて欲しい」と、励ましのメッセージをいただいた。

3 生徒の感想

- ・今まで持っていた弁護士のイメージと違い、裁判をやっているだけではなく、6~7割は事務仕事をしていることが分かった。民事・刑事事件を担当するだけでなく、委員会という社会貢献活動（暴力団に立ち向かう）や企業法務（争いが出ないように予防する）などの仕事もあることが分かった。
- ・裁判に勝つことが目的ではなく、公平に、平等に裁判を進めていくことや、依頼者にとって何が大切か、その後の生活は大丈夫かなどアフターケアもしていることが分かった。
- ・なぜ悪いことをした人の味方に付くのかと思っていたが理由が分かった。
- ・罪を犯した人とも一生懸命にかかわる姿が印象に残った。
- ・どうすれば弁護士になれるのか分かったが難しい。
- ・将来の夢について悩んでいたができることの幅を広げるために、一生懸命部活や勉強をしたいと思った。
- ・人生で初めて弁護士に出会った熱い先生だった、個人的にとっても好きな先生だ、弁護士の生の声、先生の実体験が聞けて良かった、授業の進め方が素晴らしかった等先生の人間性に感銘を受けた生徒多数。
- ・社会にどのような形で役に立ちたいか考えていく視点になった。
- ・物事を筋道立てて考える力をどう培ったか、どういう形で社会貢献しているのか先生の体験を聞いた。
- ・社会に役立つには「どんな嫌なことがあっても我慢できる」職業を選択すること。
- ・自分たちの進路について、役立つ話だった。

1年生 <<SGH：未来創造 I 職業別ガイダンス>>実施報告②

講座

B

【講師】

静岡大学工学部准教授

石原 進 先生

1 講座の様子



2 内容

静岡大学工学部数理システム工学科准助教授の石原進先生に講義していただきました。数理システム工学科は、「人と環境にやさしいシステム作りに貢献する人材を育成する」学科で、大学教員の仕事には、授業・研究・運営などがある。

大学教員は、基本的に自分が「大事だ」と思っている仕事ができ、学会発表を通じて世界中のすごい人たちとの交流もあり、世界中を視野に入れて研究ができる。また、学生の成長をみることができるとの楽しみもある。

3 生徒の感想

- ・ 関には圧倒的に情報が少ないというのを聞いて、本当にその通りだと思うし、今まで以上に都会に、世界に出てみたいという気持ちが強くなった。将来はIT系の企業で働きたく、日本の遅れているIT化を進めることができるくらいになりたいと思いました。今後、IT化を促進するためにどうしなければならないのか、どうすることで進めることができるのかを調べていきたい。
- ・ 今、科学がどうなっているのかがよく分かった。もの（ロボット）が人のような感情を持つことがおそらく可能になるが、それはあくまで人工知能であり心ではないという説明に興味を持った。
- ・ シミュレーションが社会でどのくらい生かされているか知ることができ、大学の教員になることは面白い事もあり、辛いこともあると思いました。
- ・ データを収集することによって1つ1つのデータの意味がでて、そのデータをもとにして様々なことができることに興味を持ちました。
- ・ 新しいネットワークであったり、プログラムであったり、とにかく‘新しい’‘ためになること’を伝えていったり、広めていったりすることが大切だと思った。
- ・ 車とか下水道とか身近なものに使う実験をしていることがわかりすごいと思いました。数理システム工学に興味をわきました。
- ・ 工学は、日常生活に身近なことを研究していることが分かった。

1年生 ≪SGH：未来創造Ⅰ 職業別ガイダンス≫実施報告③

講座

C

【講師】

医師：県北西部地域医療センター長

後藤 忠雄 先生

1 講座の様子



2 内容

地域医療の専門医という立場から、医師になるまでの道のりや今日の医療問題、へき地医療の必要性、今後期待される医師等について、生徒間の交流を交えながら、楽しく話してくださいました。

ご自身の経験と共に「医師の少ない中濃地区の人々のためにぜひ医師になってほしい。」と熱く語られ、心に残る講演となりました。

3 生徒の感想

- ・ 医者が人口に対し少ないのは、飛騨地方だと思っていたけど、自分たちが住む中濃地区が岐阜県で一番少ないと聞いて、驚いた。へき地医療に関わっている後藤先生の話聞いて、自分の地域に貢献したいと思った。
- ・ 幅広い分野で活躍できる医師が必要だということが分かった。地域医療というのは、地域で支えていく必要があるのだから、何か自分の周りでできることを見つけて、地域医療に少しでも協力できたらなあと思った。
- ・ 私は将来、医療関係の職に就きたいと思っています。できたら、保健師になりたいです。今日の話聞いて、患者さんと身近で寄り添うことのできる職に就きたいという思いが、さらに強くなりました。
- ・ 自分が思っていたよりも、岐阜県に医者が足りないということが分かりました。地域のためにも、将来医療系の仕事につけるといいなと思いました。
- ・ 医者としての後藤先生のような医療にしていきたいとか、こういう病院を作りたいという強い意志が、講演の内容から伝わってきて、看護師になりたいという夢について考えることができた。今日の話を生かし、将来についてもっと考えていきたい。
- ・ 郡上市はへき地があるけど、後藤先生のような人のおかげで、私たちの健康が守られてるんだなと知りました。郡上市民として、へき地医療を知っておかないといけない！と思いました。
- ・ 話を聞いて、看護師になりたいという気持ちが大きくなりました。来年、へき地医療についての合宿も体験してみたいなと思いました。

1年生 ≪SGH：未来創造 I 職業別ガイダンス≫実施報告④

講座

D

【講師】

獣医師：岐阜県職員

山崎 稔 先生

1 講座の様子



2 内容

畜産業について、動物に対するイメージや家畜の担う役割など今まであまり知らなかった分野の話や、普段我々が食べている家畜の命について、話をさせていただきました。

また、獣医師という職業に関して、生徒が抱えているイメージとは違った一面の仕事について教えていただき、生徒は興味を持っていました。

3 生徒の感想

- ・肉豚が180日で出荷されてしまうこと。人間が食べるために半年で殺されてしまうのが印象的で驚きだった。日頃から感謝して食べないといけないと感じた。
- ・私たちは牛乳パックを買うだけで新鮮でおいしい牛乳が手に入るが、その背景には酪農家の方々の日々の大変な作業があることを改めて感じた。明宝の方でも牛の放牧が行われていると知り、畜産は遠いところのイメージがありましたが、近くで行われていることに驚きました。
- ・私たちは普段ウシ、ブタ、ニワトリなどの命をいただいて生きているので、常に感謝したい。
- ・牛乳は母牛が子牛にあげるためのものを私たちがもらっていることを十分に理解しなければならぬということが分かりました。
- ・酪農の方は365日休みなしで、働いてくださっていることで、私たちがおいしく食べ物をいただけるので、感謝の気持ちを忘れてはいけないと思いました。
- ・「獣医」と聞くと、今まではペットをみる医者を思い浮かべていたけれど、家畜専門の獣医さんについてよくわかったし、国に必要とされていることが分かった。
- ・畜産業についてほとんど知らなかったけど、講座の話聞いてとても興味深かった。
- ・畜産・産業動物獣医師の仕事についてもっと知りたいと思った。
- ・家畜が「寿命とは関係なく価値の高いところで売られている」というところが、少し考えれば分かることなのに、今まで気づいていませんでした。もっと生きられるはずだったものの命を人のために終わらせている。本当に感謝して食べるべきだと思いました。

1年生 ≪SGH：未来創造Ⅰ 職業別ガイダンス≫実施報告⑤

講座

E

【講師】

美濃加茂市学芸員

富加町学芸員

藤村 俊 先生

島田 崇正 先生

1 講座の様子



2 内容

前半は自己紹介を交えながら、学芸員の仕事を紹介していただきました。歴史的価値のある建造物や仏像などを保存するとともに、広くPRするための工夫など具体的内容を交えてお話しいただきました。夕田茶臼山古墳での中学生との測量会のスライドやパンフレットを用いて説明していただきました。

後半はこの仕事に就くためには、どのような進路に進み、資格を取得する必要があるのかといった、この仕事に就くために必要なことをお話しいただきました。

3 生徒の感想

- ・歴史を学ぶためには経験が必要だと思いました。
- ・博物館、遺跡に今までより興味がわきました。
- ・富加町に1800年も前の古墳があることに驚いた。どのように文化財を見つけるのか、また、仕事の楽しさも聞くことができ、とても面白かったです。
- ・自分の専門分野をいかす仕事なので、やりがいがありそうだと思います。
- ・学芸員という仕事の幅が広いことを知ることができました。
- ・岐阜県の古墳など文化財を大切にしなければならないと思いました。
- ・学芸員という仕事を深く知ることができて良かったです。
- ・普段あまり関わることのない職業の方のお話を聞いて良かったです。世界が広がりました。
- ・具体的な写真で見せていただくことで、非常にわかりやすく伝わってきました。大変なことや辛いことが多いそうですが、自分の成果を残していけるというやりがいを持つのは素晴らしいことだと思います。
- ・少しの興味から今の仕事につながるという言葉が心に残りました。自分はまだ、興味を持っていても、実行に移せず、一歩ひいてしまうことが多いので、積極的に体験していきたいです。
- ・先生の熱意が伝わってきて、歴史についての仕事も魅力があると感じました。
- ・学芸員は法律に基づいて、町をよりよくするための職業であると知れたのでよかったです。
- ・自分から古墳を見に行くことはあまりないですが、近くを通った時にこの講義を思い出してみたいと思います。
- ・学芸員は、文化財を守り調べるだけでなくいろいろな人に伝え、新しい発見をしていくものだと知り、だからこそ私たちが歴史を知ることができるのだと実感できました。
- ・この仕事に必要な資格、細かな仕事の内容まで知ることが出来て、関心が深まりました。

1年生 ≪SGH：未来創造Ⅰ 職業別ガイダンス≫実施報告⑥

講座

F

【講師】

大阪市東淀川区役所保健福祉課生活保護担当

櫻井智子 先生

1 講座の様子



2 内容

- 1 大学卒業までの私
目標を見失いそうになったが、様々なボランティアやアルバイトに挑戦し、自分の進む道を見つけたという体験談。
- 2 生活保護のケースワーカーになって
ケースワーカーの仕事内容について、具体的な事例を挙げて説明。(例＝薬物依存や児童虐待のケースにどう支援をしていくか)
- 3 ライフワーク
公務のほかに、大阪ダルクなどの活動に参加して薬物依存症の人の支援をしたり、学校で十分学ぶことのできない中学生を教える中学生勉強会などを開催したり、これからも継続的な活動を続けていきたい。

3 生徒の感想

- ・経験しているからこそその言葉の重さを感じた。自分自身の無知による偏見も改めて分かった。
- ・少し、ケースワーカーになりたいと思いました。自分でも調べてみて自分が本当になりたいか、考えてみようと思った。
- ・すごく重みのある話でこの講座を取ってよかったと思った。この講座でしか聞けない話がたくさんあって、自分の世界も広がったと思う。
- ・事例はつらく苦しいものだったが、今、知ることができてよかったと思う。話を聞いて、こういった職種に進みたいという思いが強まった。
- ・生活保護や薬物依存についてのイメージが変わった。私も今まで偏見を持っていたが、それなしでは生きていけない人もいて、その人自身も相当な苦勞をしていることが分かった。
- ・人を助けて普通の幸せを与えられる仕事だと思った。
- ・やりたいことを見つけて大学に入ったのに、夢を見失ってしまうことももちろんあって、でもそこで、いろんなことに挑戦することが大切だと思った。本当にやりたいことは、大学でも見つけられるとわかって安心した。
- ・「人の死」と向き合う、直面する仕事はとてもつらいだろうと思った。しかし、とても素敵な仕事だと思った。
- ・話が心に響いた。自分もこんな仕事がしてみたいと思った。将来の仕事の選択の幅も広がった。
- ・実際に起きた話を聞いてみて、最初は偏見があったが、徐々に私たちには何ができるのだろうというふうに考えられるようになって、すごく興味を持つことができた。
- ・一人で80世帯を担当して、一人一人に対応していくのは大変だと思った。
- ・中学生勉強会はとてもいい活動だと思う。教師という職業に少し興味があるので、そういうところでボランティアをしてみたいと思った。

1年生 ≪SGH：未来創造 I 職業別ガイダンス≫実施報告⑦

講座

G

【講師】

野村総合研究所 上級コンサルタント
(本校 SGH 事業アドバイザー)

小池 純司 先生

1 講座の様子



『仕事は自分のアイデンティティー！』

2 内容

アフリカや中東は自分たちが思っているよりも日本との関わりが深い。良い関係を構築するには、援助の意義や方法を考えなくてはならない。高校で学んでいることはすべて世界とつながっている。例えば、コミュニケーションツールとしての英語は、学べば世界がどんどん広がる。世界史で学んだことは、留学した時に身近なものとして自分の物の見方に深さを与えた。高校時代の部活動や生徒会活動に積極的に参加したことも、今の自分を作っている。世界を身近に感じ、世界との関わりを持つためには、考えているだけではなく自分から行動することが大切である。

3 生徒の感想

- ・ 関高出身で身近な人がとてもグローバルな人ですごくびっくりしました。考え方も行動の仕方も世界的で、圧倒されました。また、仕事に対してとても熱心で、自分の興味のあることについて働くことは素敵だと思いました。
- ・ 日本経済の最前線に立つ人の話が聞けて良かった。小池先生のように、経営のサポートをする仕事、政府や国連と世界経済の政策を考えることは本当に面白そうだと思った。初めて経済に興味を持つことができ、進路を考える上で大きな材料となった。
- ・ 初めは難しい話が続くのかと思っていましたが、実際はわかりやすい説明や図などでどんどん引き込まれていきました。自分の今までの生活では、絶対に関わることがないであろう国際的な問題について考えるきっかけをいただきました。自分の視野が広がる講座でした。
- ・ 私はアフリカについてあまりにも無知だったんだと実感しました。国際貢献というとすぐに援助とか募金とかにしか目がいかなくて、企業進出や技術提供など、長期に渡って援助できることがあり、それを実行するには常に世界に目を向け考えなければならないと思いました。新聞の読み方が変わりそうです。
- ・ 第三者だという意識を捨て、もっと自分たちと世界とのつながりに目を向けて、世界に対して日本ができる国際貢献について考え、視野を広めていきたいです。
- ・ 関高校で学んだことが今の仕事に役立っているとおっしゃったことが印象的で、自分も今の生活をもっと前向きに送ろうと決意しました。

1年生 <<SGH：未来創造 I 職業別ガイダンス>>実施報告⑧

講座

H

【講師】

野原電研株式会社

野原 謙太郎 先生

1 講座の様子



2 内容

- ・自己紹介及び略歴
 - ・野原電研株式会社概要
 - ・高校・大学・社会人時代の過ごし方
 - ・現在の自分と今後のビジネス展開
 - ・高校生の皆さんに伝えたい事
- 大学・社会人時代を東京で過ごし、グローバルなビジネスに携わってきた経験から、『誰と出会うか？どんな仕事と出会うか？良い人生は、良い出会いで決まる！』『1度きりの人生日々楽しく、達成感をもって生きよう！』というメッセージを頂きました。

3 生徒の感想

- ・努力をどう重ねていくかによって達成感も変わってくるし、夢の実現にも深く関わってくるので自分に厳しくいきたいと思いました。
- ・人生で成功する人は、自分の力で何かを変えようとしている人だと思いました。
- ・努力は裏切らないとおっしゃっていたので、自分もそうやって夢を叶えたいと思いました。
- ・とても出会いの大切さがわかる講座だった。人とひととのつながりによって自分の人生を変えることもあるんだなと思った。
- ・“今”努力するという言葉が強く心に残りました。私は、いろいろなことを後まわしにしてしまいがちなので、“今”を大切に先へ先へいけるようにしたいと思います。
- ・企業を経営するためには、海外との交流が大切なんだと分かった。いろいろな人種・年代の人と関わりを続けることが今後に繋がっていくんだと分かった。
- ・自分が思うことをやってみることが大切だと分かった。酸素センサは小さな部品だけど、環境のために必要だと思った。
- ・この仕事のことだけでなく「出会いを大切にすること」や「人生を楽しむこと」など、これからの人間関係のことでもたくさんを教えてもらえてとても為になった。